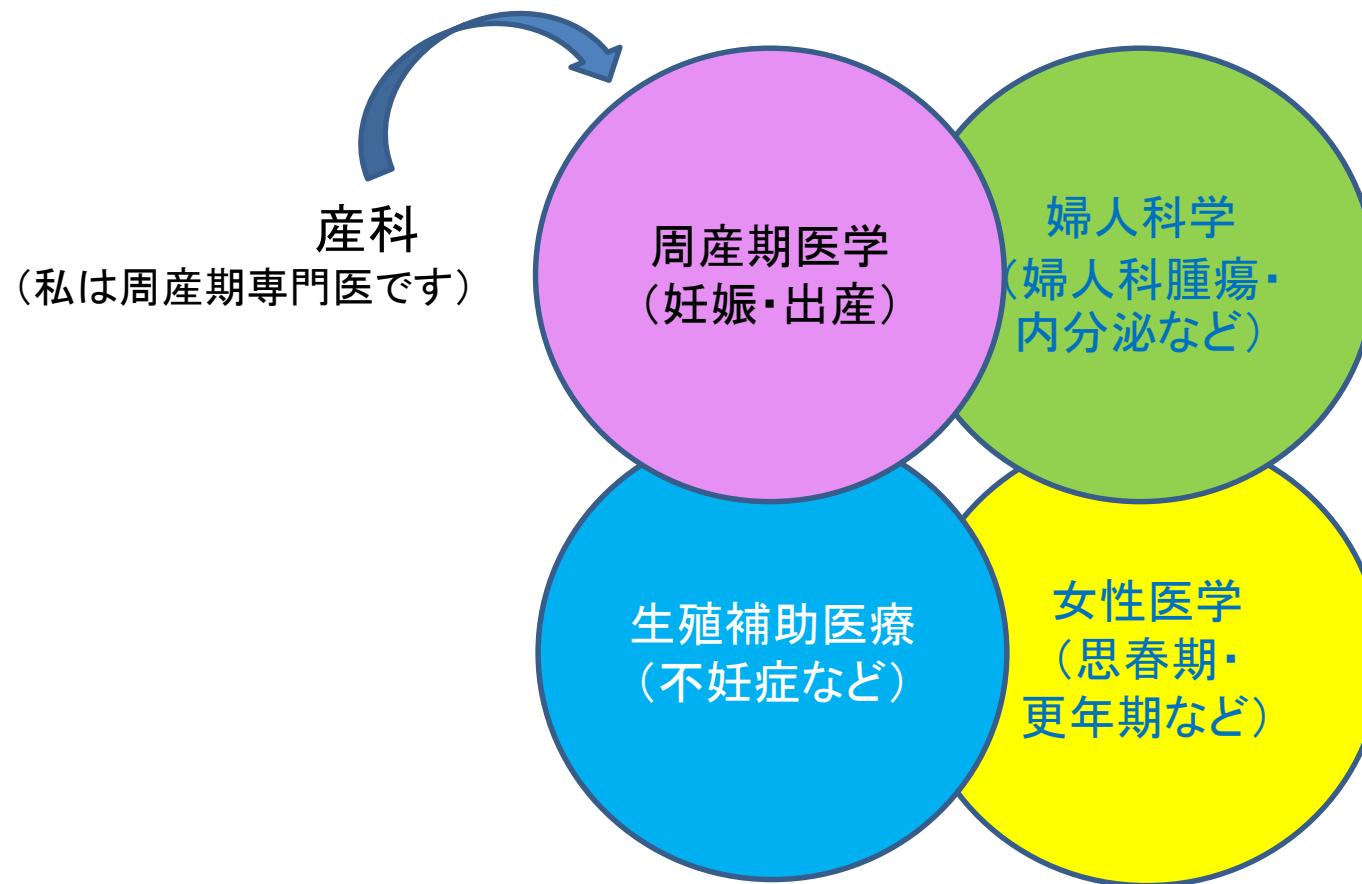


# 産婦人科医療

信州大学産科婦人科  
大平哲史(おおひら さとし)



# 産婦人科医の役割



女性の一生をケアする職業である。仕事は楽な方ではないが、学問としては非常に幅が広く、とてもやりがいがある。

# 女性の一生をケアする産婦人科医療

思春期医学

更年期障害

子宮脱・萎縮性腔炎など

婦人科学(婦人科良性腫瘍・悪性腫瘍・性感染症など)

生殖補助医療(不妊症)

周産期医学(妊娠・出産)

誕生

10

20

30

40

50

60

70

80

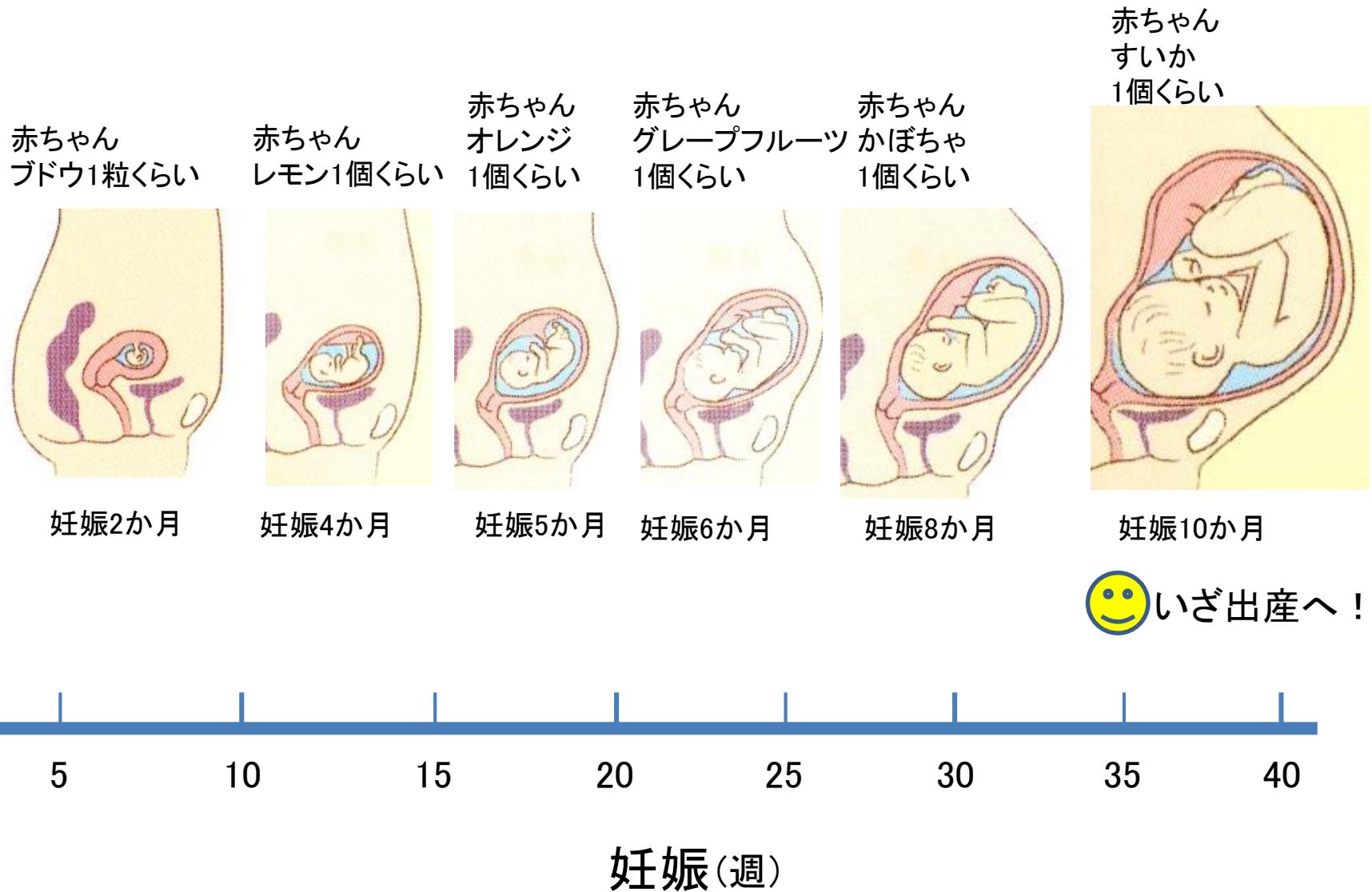
年齢

# 周産期医療

(妊娠・出産)

妊娠の経過と妊婦健診

# 妊娠の経過



# 妊婦健診



超音波(エコー)を使って胎児の様子を観察します。

2週  
排卵・受精

4週  
妊娠反応陽性

5～7週：産婦人科に受診  
妊娠と判明！



最終月経

5 10 15 20 25 30 35 40

妊娠(週)

2週  
排卵・受精

4週  
妊娠反応陽性



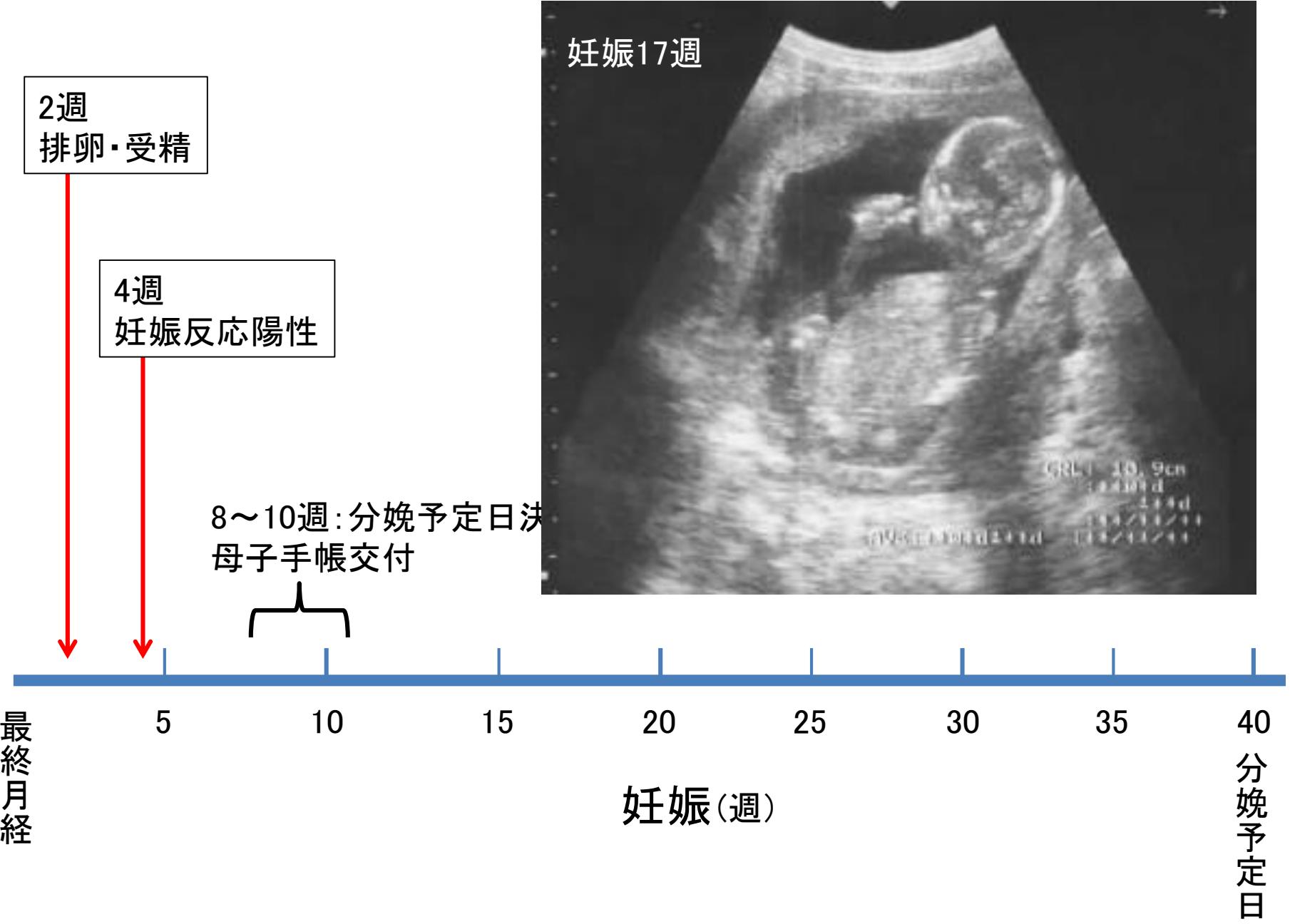
8～10週：分娩予定日決定  
母子手帳交付

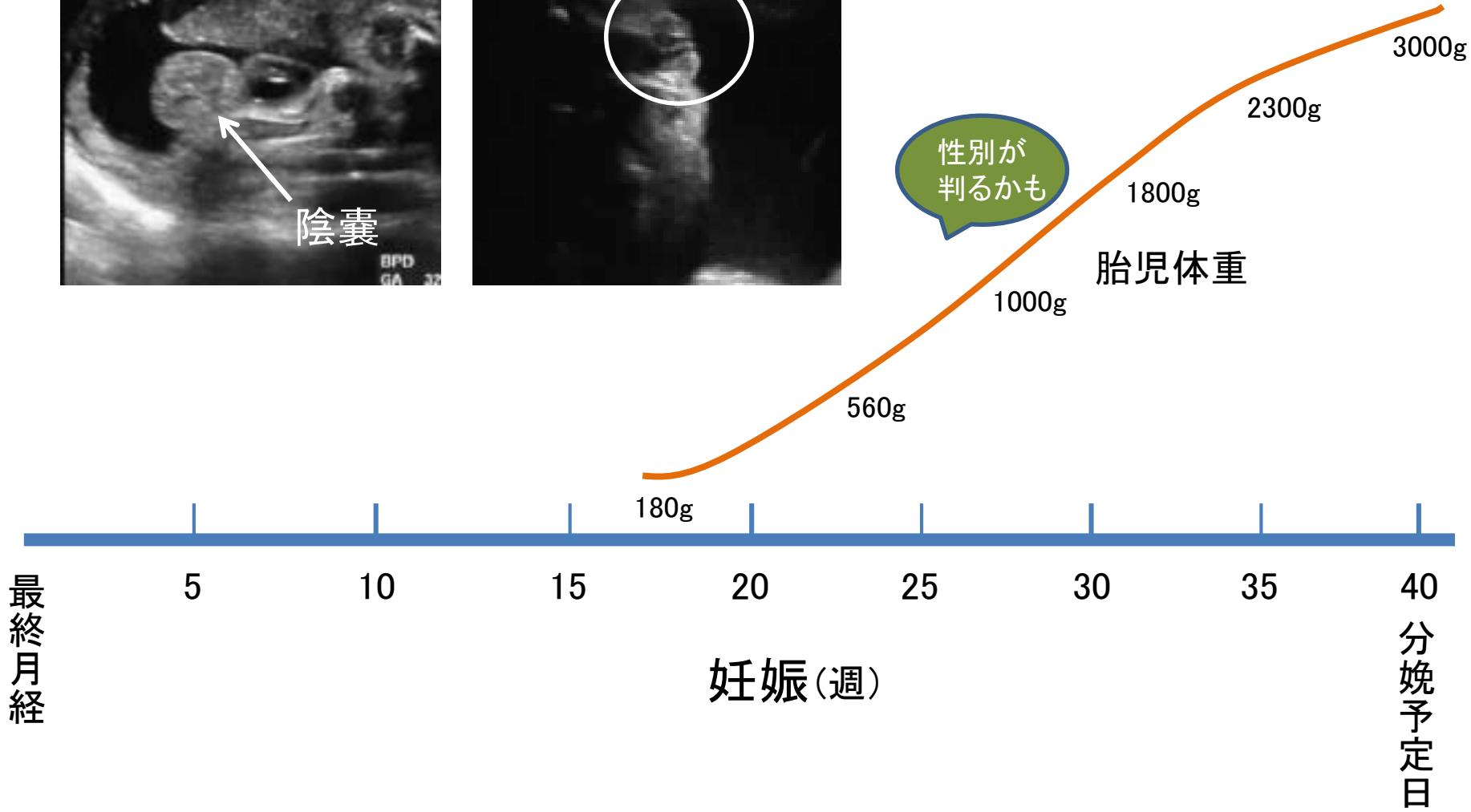
最終月経

5 10 15 20 25 30 35 40

妊娠(週)

分娩予定日

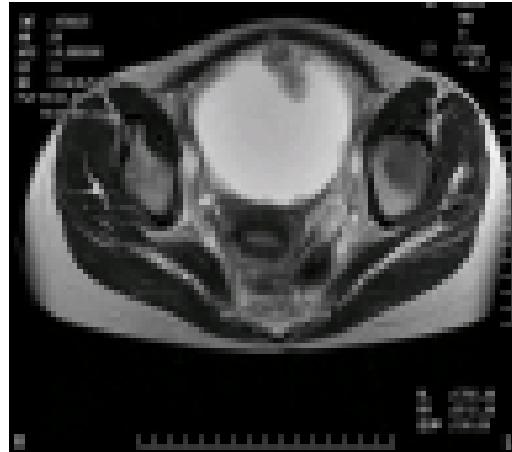




# 婦人科学

(婦人科腫瘍・内分泌・性感染症など)

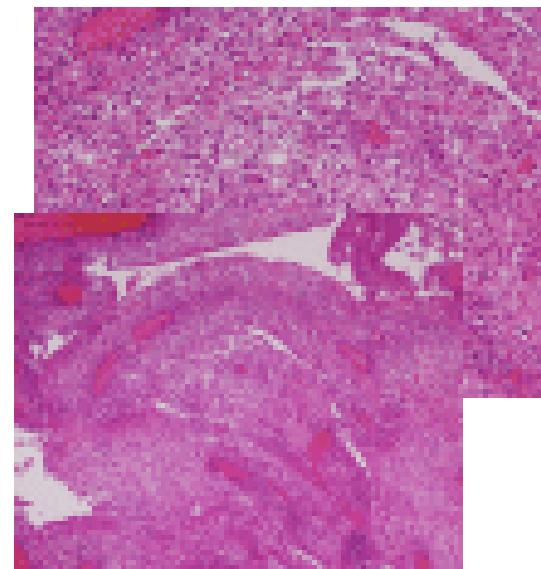
# 卵巢癌



MRI

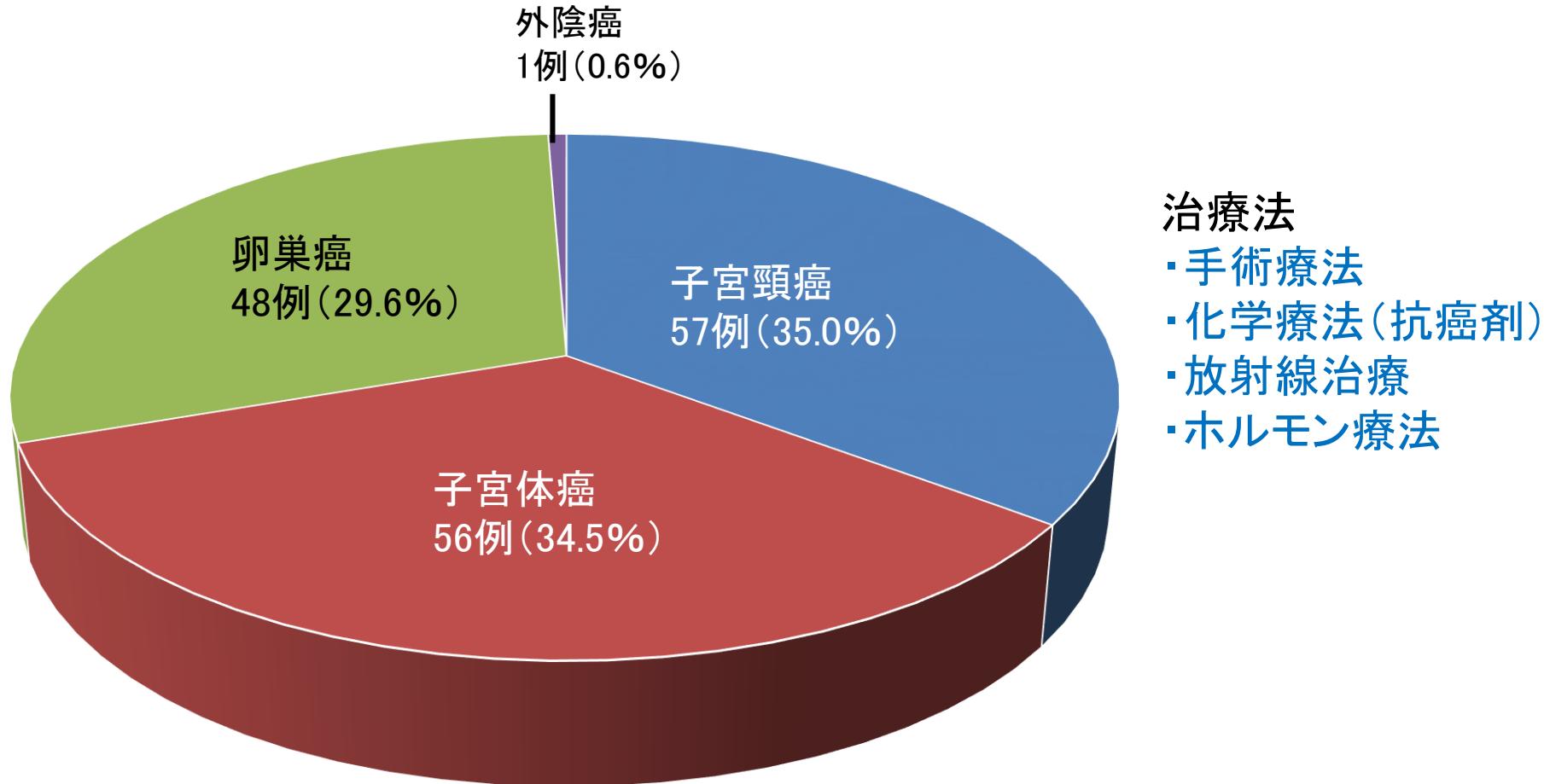


術中所見

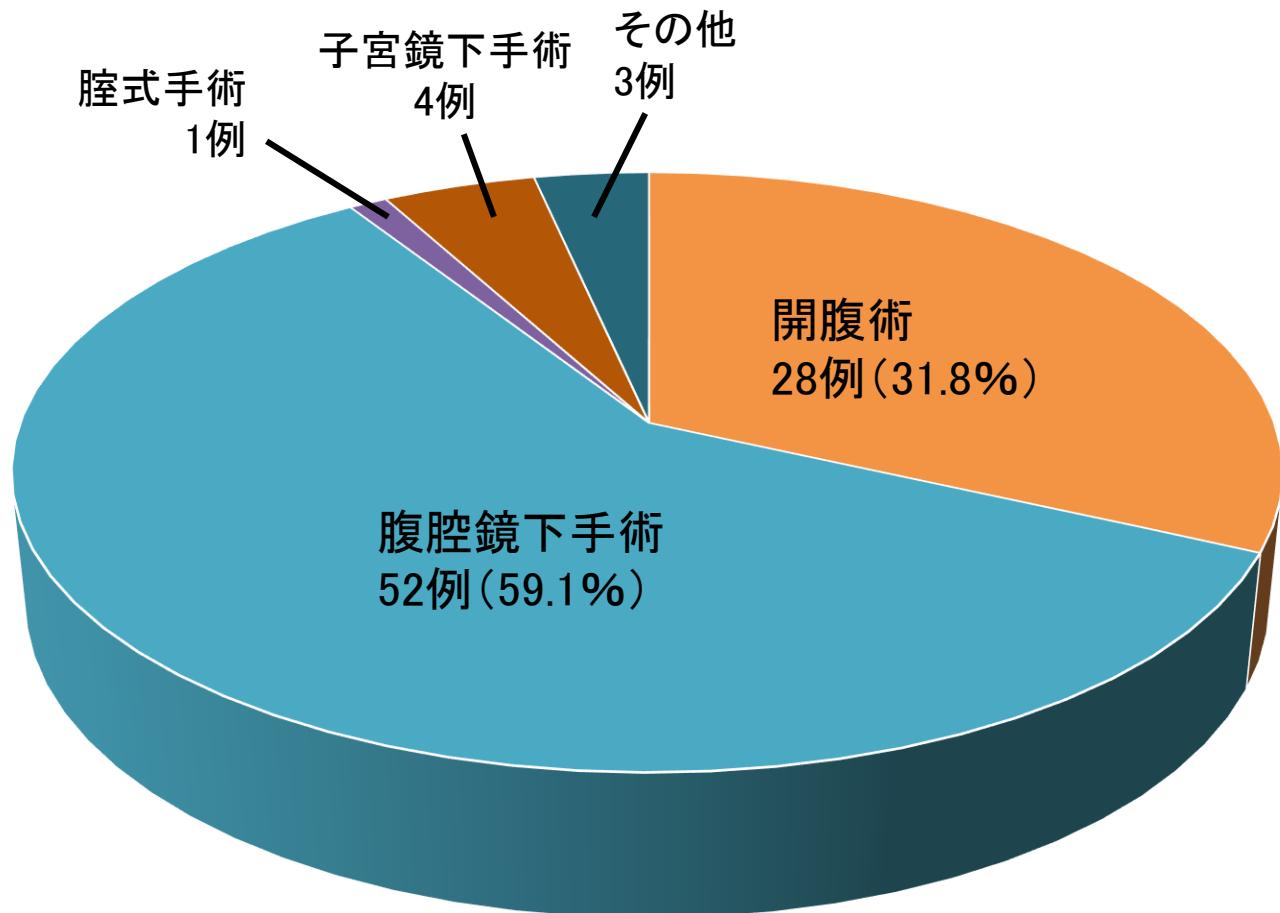


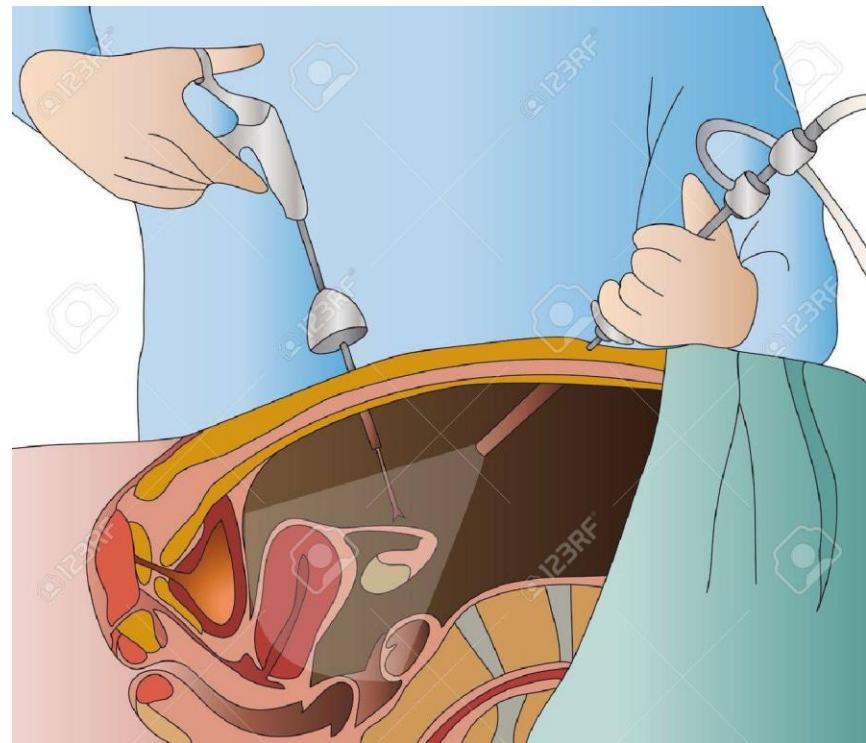
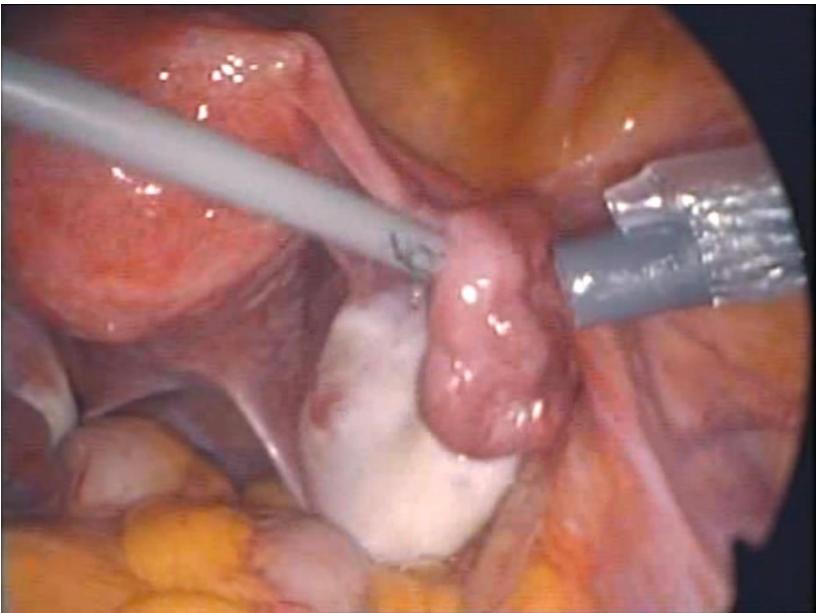
病理組織像

# 信州大学 2016年 婦人科悪性疾患臨床統計



信州大学  
2016年 婦人科良性疾患術式統計

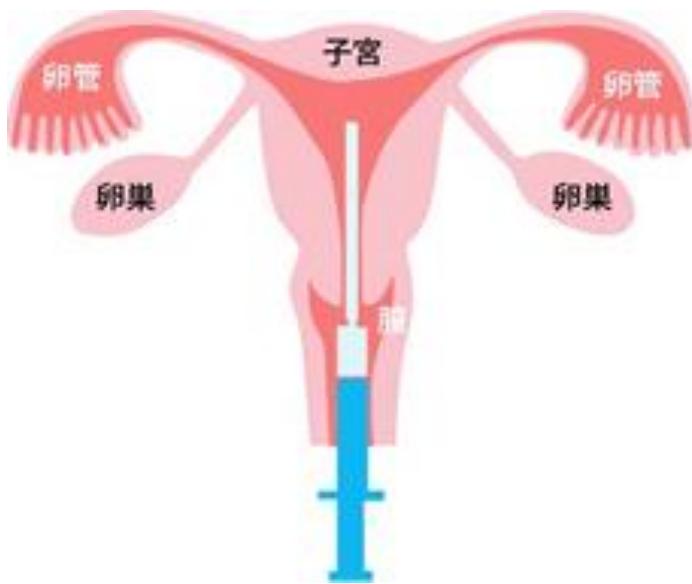




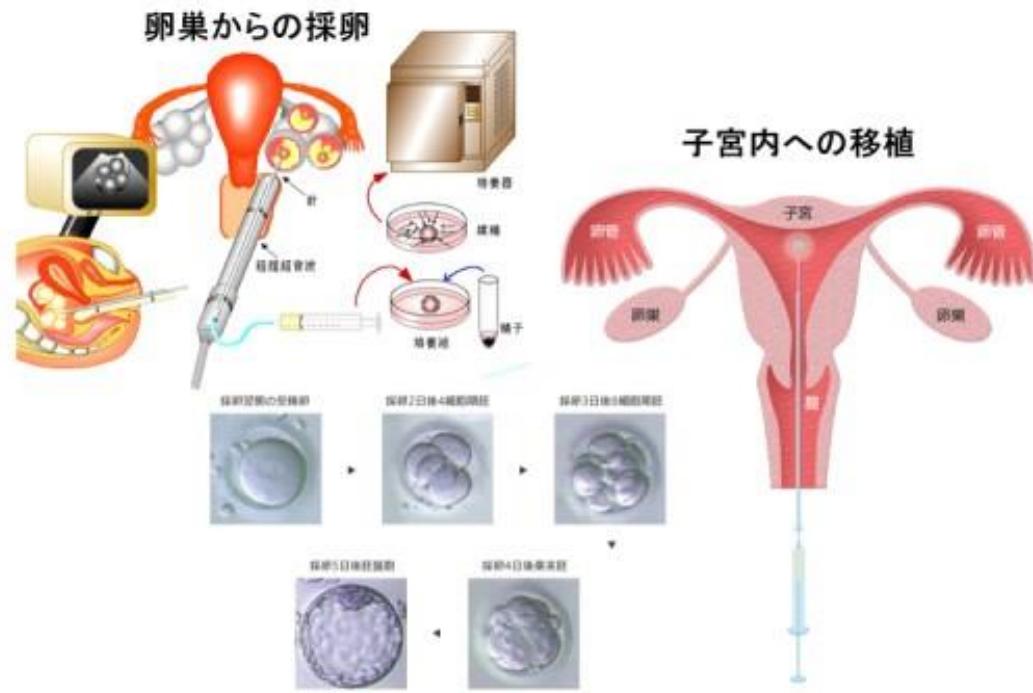
# 生殖補助医療

(不妊症など)

# 人工授精



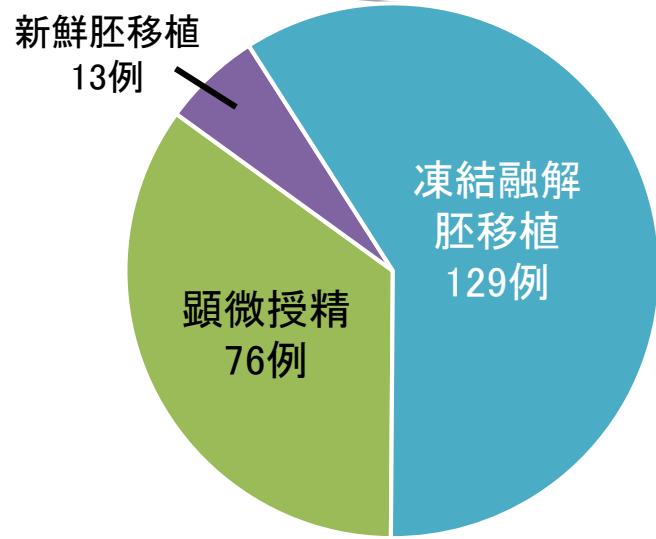
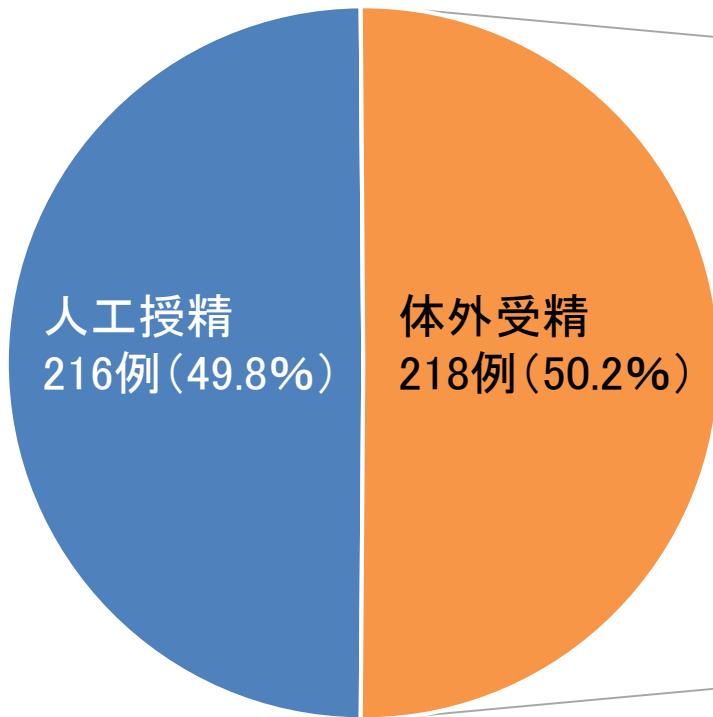
# 体外受精



精子を注入

採卵して精子と合わせる  
→受精卵を子宮内へ

# 信州大学 2016年 不妊症治療臨床統計



# 顯微授精



A photograph of a man in a dark suit, white shirt, and patterned tie, wearing glasses and holding a microphone. He appears to be giving a speech or presentation.

**更年期は生活改善のとき**

【夫婦で更年期を乗り切るために】

更年期に入つたことは、外食や飲酒などの食生活を見直すサイン。運動不足の改善は大事だが、いきなり始めるのは体力的、精神的に大変な

がなくなるので自分の趣

ペースで、また、子どもの進学や就職などだけを生きがいにしていくと、期待通りにいかなかつたときや、それが実現した後に目標

自分の体を知り、パートナーのことも理解し、お互いの苦しいことを分かち合って力を合わせることが乗り切る第一歩だ。会話を大切にして、ゆとりある日々を過ごすことが満足感や幸福感につながる。

信大医学部産科婦人科・大平講師に学ぶ

# 更年期障害の基礎知識

「更年期障害」という言葉が気になる年代になってきた。誰もが経験する人生の通過点なのでやみに恐れる必要はないが、症状の出方は個人差があり、最近は男性の更年期障害も増えていると聞くので、基本的な知識は頭に入れておきたい。松本市の信大医学部産科婦人科の大平哲史講師(47)が、3月に同大で開いた市民公開講座「夫婦で乗り切る更年期」を取材し、要点をまとめた。

誰もが経験する  
方には個人差  
本的な知識  
平哲史講師  
更年期<sup>を</sup>  
(上條香代)  
に「いい症状も多い。甲状腺機能異常、心疾患、脳血管障害、整形外科疾患など他の疾患が隠れている場合もあるので、自己判断せず医療機関で正しい診断を受けてほしい。

医療機関で正しい診断を

女性の更年期  
閉経の前後5年間。閉経は12ヶ月以上の無月経を確認して判定するのをさかのぼって判断する。日本人の平均閉経年は50～51歳。  
加齢により卵巣機能が低下し、それまで卵巣で作っていた女性ホルモンのエストロゲンの量が減少すると、脳は卵巣に対してもう出でなくなる。ナルを送るが、卵巣は分泌できない。脳の指令による応答のバランスが取れず、不要な興奮を起こすことから、自律神経の調節不良や身心の不調が起りやすくなる。

## 更年期障害の諸症状

#### ①自律神経失調症状

のぼせ(ホットフラッシュ)、発汗  
寒け、冷え、動悸(どうき)、胸痛、息苦  
しさ、疲労感、頭痛、肩凝り、目まい

## ②精神的症状

情緒不安定、いろいろ、怒りつい、不安感、抑鬱気分、涙もろい、意欲低下

### ③その他

腰痛、関節痛、手のこわばり、むくみ、しびれ、かゆみ、蟻走感、排尿障害、頻尿、性交障害、外陰部違和感

①薬物療法 ホルモン補充療法、漢方療法。その他(向精神薬)として抗鬱薬(うつ薬)、抗不安薬、睡眠薬。

②心理療法 指針△

分析、来談者中心療法、行動療法など

③食事療法 一番はバランスよく食べる。

の悪い生活習慣も修正で、  
るごとに短時間で効果が失われ、継続することで日常生活が正常化され、運動療法を楽しく無理なく継続できるものが望ましい。運動を中止するとか否かが尿で分かかる検査キットが通信販売などで販売され、エクオールのサブリメントもある。

感。 震<sup>レバ</sup>いいら不安感、神経過敏、生氣消失、疲労感。  
②精神・心理 落胆、抑退。

更年期  
女性

【男生の更年期】

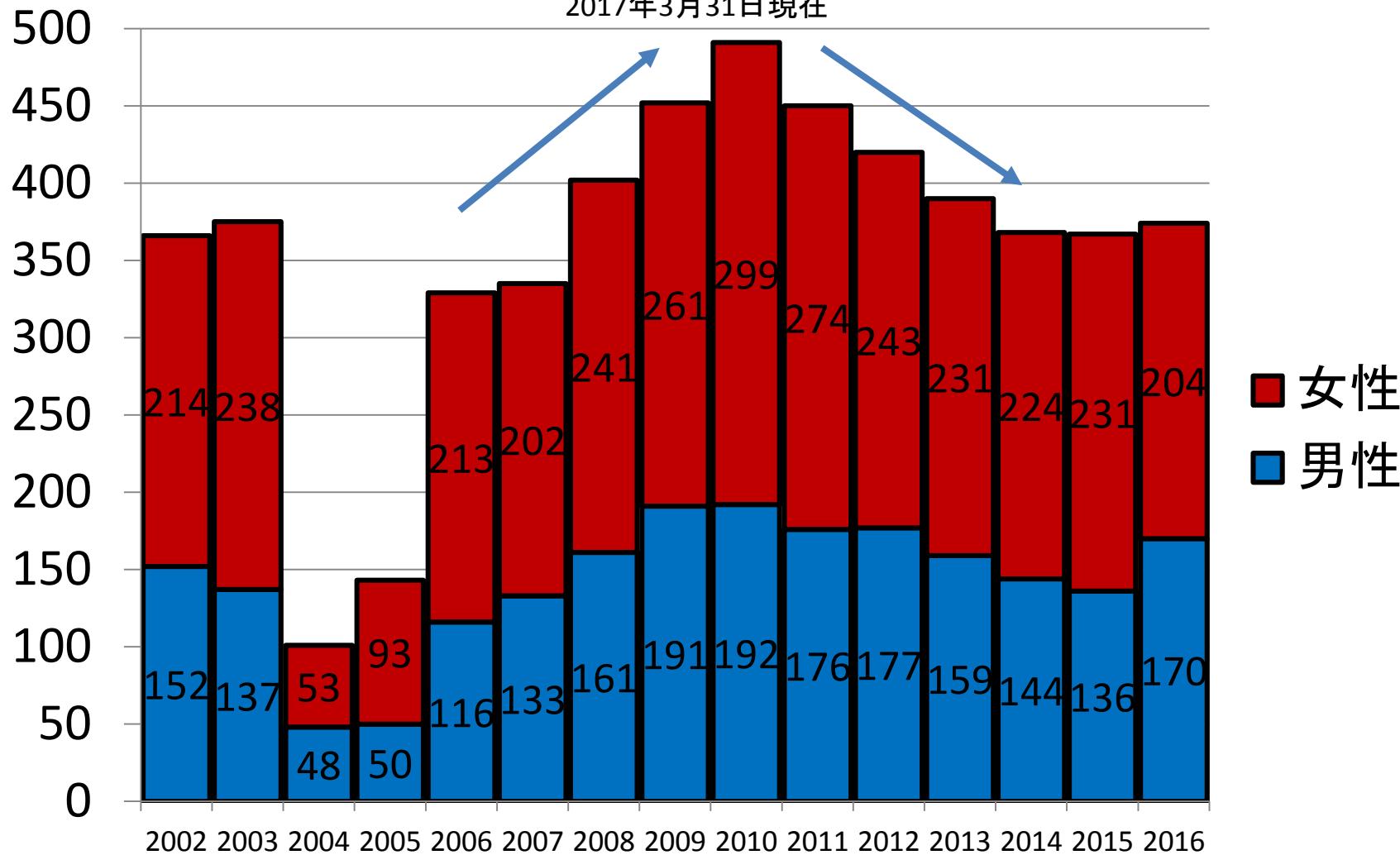
# 産婦人科医療の問題点

## —産婦人科医不足—

- ・産婦人科医になる医師が少ない
- ・分娩取り扱い施設の減少

# 日本産科婦人科学会 年度別新規入会者(産婦人科医)数の推移 (全国で毎年何人が産婦人科医になったか)

2017年3月31日現在

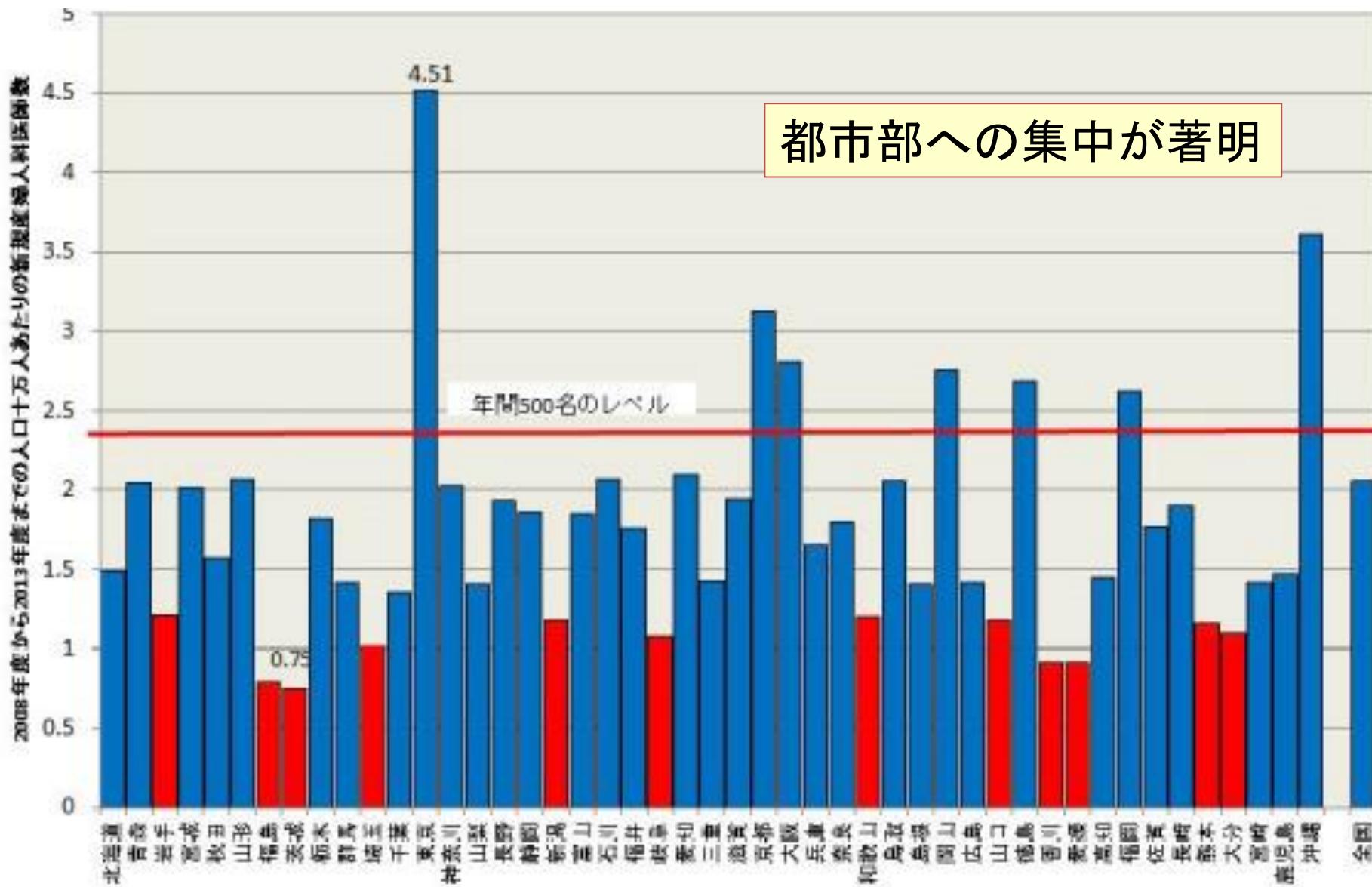


2010年をピークに漸減傾向:

安定した産婦人科医療維持のためには毎年500人の新規医師が必要。

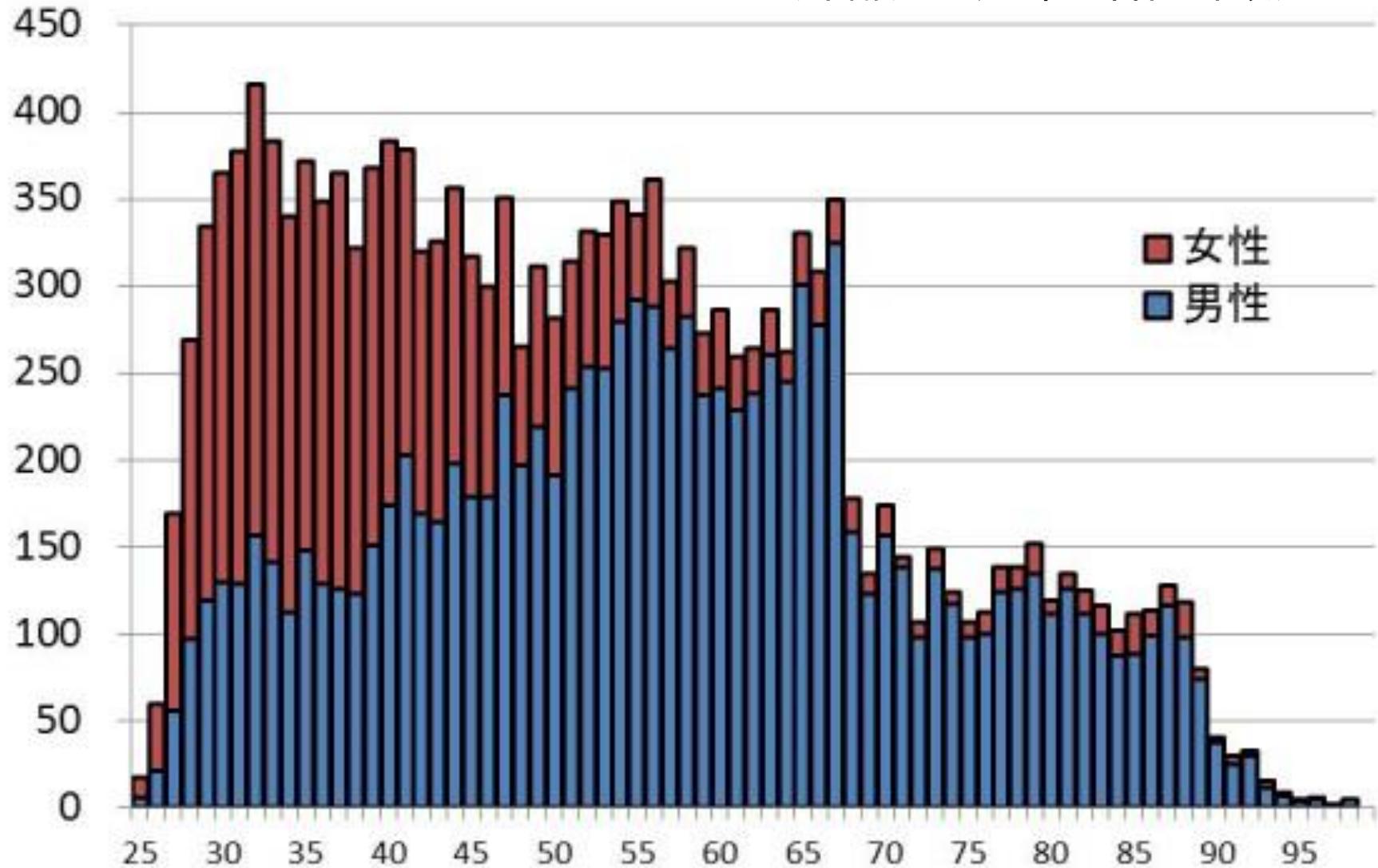
## 都道府県別新規産婦人科医師数

(人口10万人あたり)



# 日本産婦人科学会 性別年齢別会員数

(年齢別の産婦人科医師数)



若年層での女性医師の増加が著明

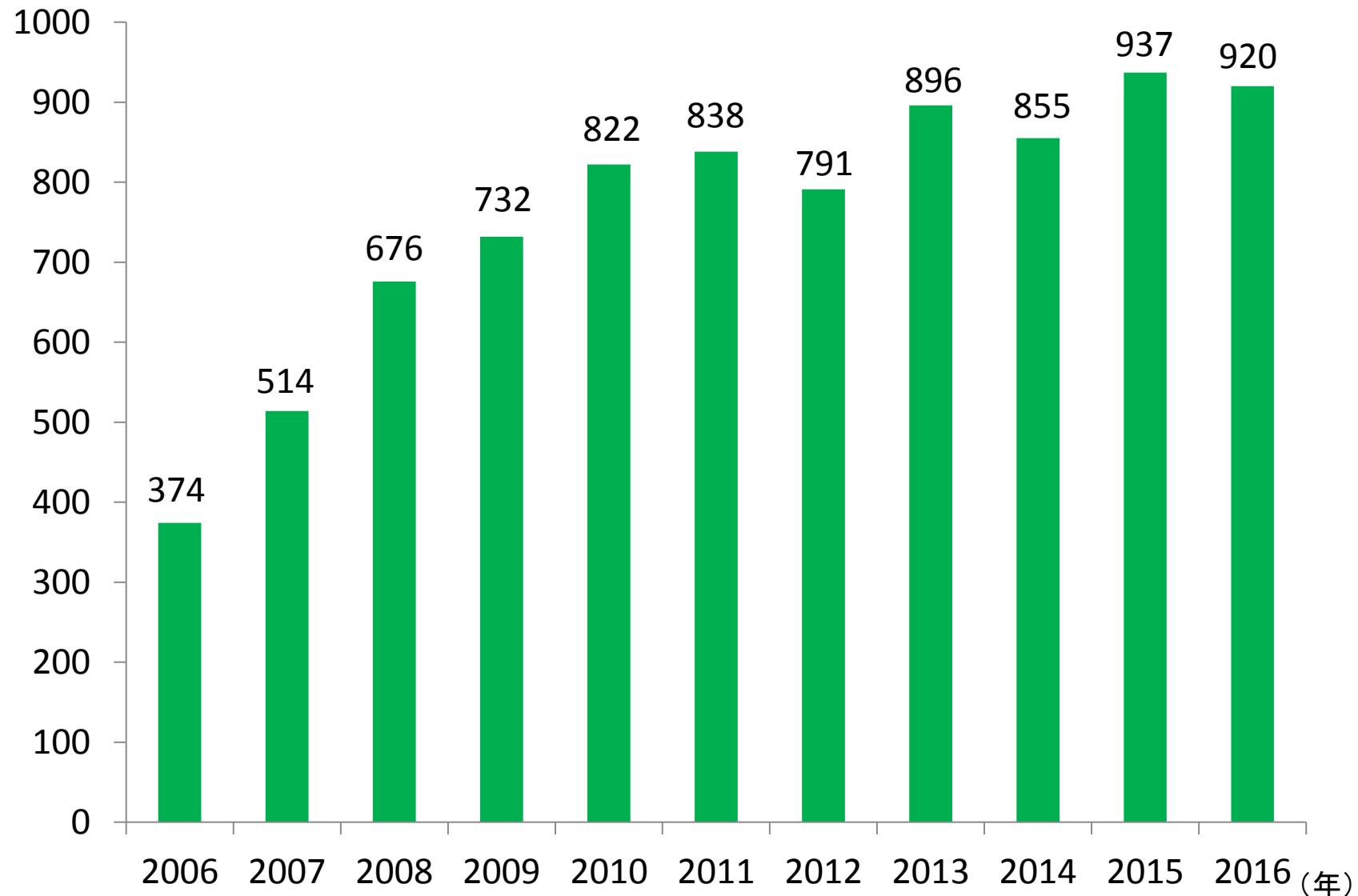
# 約20年前の 県内産科関連病院



# 産科施設の減少 と集約化が進んだ

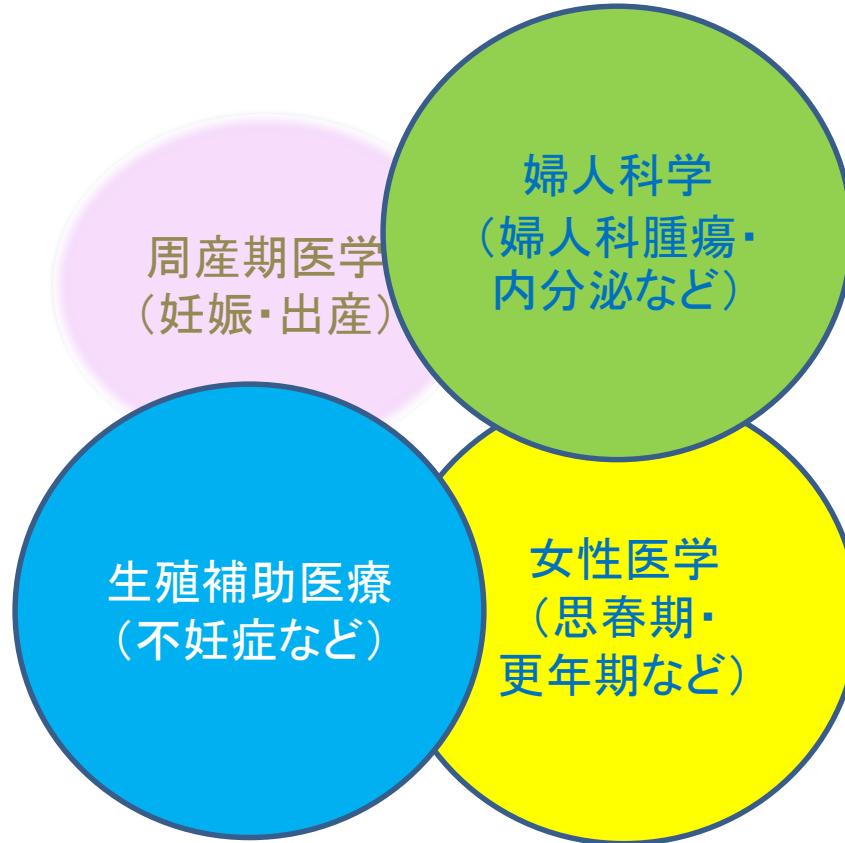


## 信大病院における年間分娩数の推移



- ・女性医師には、妊娠・出産により仕事を離れなければならない時期がある。
- ・各医師に合った柔軟な勤務体制の構築が必要である。
- ・毎年500人の新規産婦人科医が必要であるが目標に達していない。また、都市部と地方とで格差がある。
- ・産婦人科医不足による分娩施設の減少のため、分娩施設の集約化が起こっている。(集約化することにより対応している)

# 産婦人科医の役割



子育て中は、夜間・休日の分娩当直はできなくても、昼間の業務が可能。活躍の場はいくらでもある。